

生成 AI を学校の授業で利用することへの親の賛否とその特性

○水野 一成 (Kazunari Mizuno)、近藤 勢津子 (Setsuko Kondo)

Keywords : 生成 AI ・ 小中学生 ・ 親 ・ 授業 ・ 定量調査

1 目的

本研究の目的は、生成 AI を学校の授業で利用することに対し、「賛成」「反対」「分からない」と回答した親の特性を明らかにすることである。

2 方法

本研究では、2025 年 11 月に全国の小中学生とその親 1,200 組を対象に、訪問留置法による調査を実施した。標本は層化二段抽出法を用い、性別、学年、地域、都市規模で割付を行った。分析には数量化理論第Ⅱ類を用い、目的変数は生成 AI を学校の授業で利用することに対する態度（①賛成、②反対、③分からない）の 3 群とした。説明変数は、「生成 AI 関連」「学校との関連」「親の属性」「子の属性」から計 12 項目を設定した。

3 結果

調査の結果、賛成は 47.9%、反対は 31.2%、分からないは 20.9%であった。数量化理論第Ⅱ類による分析の結果、判別的中率は 71.4%であり、第 1 軸の相関比は $\eta^2=0.20$ （寄与率 63.8%）、第 2 軸の相関比は $\eta^2=0.11$ （寄与率 36.2%）であった。カテゴリースコアの結果から、「賛成」と回答した親は、①生成 AI に対する認知が高い、②学校における生成 AI の指導・活用体制が整っていると認識している、③子どもが生成 AI を理解していると認識している、④子どもが中学生である、という傾向がみられた。一方、「反対」と回答した親は、①生成 AI に対する認知はやや高いものの、②学校の指導体制が整っていないと認識しており、③子どもが生成 AI を十分に理解していないと考えており、④子どもが小学生高学年である、という傾向が確認された。また、「分からない」と回答した親は、①生成 AI に対する認知が低く、②学校の指導体制や、③子どもの生成 AI 理解について把握できておらず、④子どもが小学生低学年である、という傾向がみられた。

4 結論

以上により、親の生成 AI 理解、学校の指導体制に関する認識、子どもの発達段階が、親の態度形成に関連していることが示唆された。

【主要参考文献】

佐々木(2025) 中学生の社会科授業における生成 AI「Gemini」活用の実践報告 :

批判的思考と主体的な学びを促す可能性. 弘前大学教育学部研究紀要, 29 号: 59-69

田中(2024) 生成 AI を生徒が探究的な学習において活用する学習方法に関する一考察.

早稲田大学大学院教育学研究科紀要, 第 34 号: 33-44

水野 一成, 近藤 勢津子 (2025) 中学生で生成 AI を利用している子の特性,

日本教育工学会研究報告集/2025 巻 (2025) 1 号, pp.102-105

文部科学省(2025) 初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン(Ver2.0),

https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf